

在家仏教講演会 開催ご案内

東京 時間：午前10時～11時30分
会場：中野サンプラザ7階研修室10（中野区中野4-1-1）
会場整理費：700円 お問合せ：03-6684-6692

- 12月 8日（土） 平家物語と仏教
伊藤 益 先生 筑波大学教授
1月12日（土） 「非俗」の実践
阿満利磨 先生 明治学院大学名誉教授
1月26日（土） 労働の場と個の確立
本多弘之 先生 親鸞仏教センター所長
2月 9日（土） 企業活動と宗教—宗教的理念なき企業は消え去って行く
柴田文啓 先生 開眼寺住職・元横河アメリカ社社長
2月23日（土） 生きること、はたらくこと—菩薩行として
末木文美士 先生 東京大学名誉教授
3月 9日（土） 通俗道徳と浮世の思想
島園 進 先生 上智大学教授
3月23日（土） 罪としての労働と慈悲行としてののはたらく
保坂俊司 先生 中央大学教授
4月13日（土） 私のオウム事件
楠山泰道 先生 大明寺住職・日本脱カルト協会顧問
4月27日（土） 迷いからの脱出
山崎龍明 先生 武蔵野大学名誉教授

大阪 第3金曜日 午後3時～4時30分
会場：堂島アバンザ5階または14階（北区堂島1-6-20）
会場整理費：500円 お問合せ：06-6346-7000

3月15日（金） 釈尊から親鸞聖人へ
丘山 新 先生 浄土真宗本願寺派総合研究所所長

いのち尊し

第20号
いのち尊し
平成30年12月1日
公益社団法人 在家仏教協会
〒101-0062
東京都千代田区 神田駿河台3-3 五明館ビル202号
TEL 03-6684-6692
FAX 03-6684-6709

「在家のまま仏教に生きる」

菅原伸郎

（在家仏教協会理事長）

在家仏教協会が創立以来掲げてきた「四つの信条」について、昨年から私なりの解釈を述べてきました。全文は二面に載っています。今回は残った第四項「在家生活のまま仏教に生きよう」として「こと」を考えてみます。

ご出家の集まりでないのだから

当然の話じゃないか、と言ってしまえばその通りです。しかし、協会の創立は敗戦後間もない、新憲法の下で社会全体が前向きだったころなのです。伝統仏教は何をして

筋としてきました。釈迦国の政治を担うはずだったゴータマ・シツダルタは、妻子を置いて流浪の旅に出ました。わが西行法師も、取りすがるわが子を蹴飛ばして出家したと伝えられています。今日でも、南アジアの僧侶は生産活動に携わらず、もっぱら托鉢や喜捨によつて生活しています。

となると、家庭や仕事を持つ者が仏教を学ぶことは無理なのでしょ

協和発酵工業の社長だった加藤先生にとつては、世界に貢献する「わが社」や、あるいは仲間や部下は誇りだったでしょう。当然、出家などは思いもよらなかったはず

文章も書いておられるのです。《仏教が実業家である私に一体何を教えてくれたのでありましょ

鴨長明の「方丈記」にある《淀みに浮ぶうたかた（泡沫）は、かつ消え、かつ結びて、久しくとどまりたる例（ためし）なし》を念頭に書かれた文章でしょう。会社や世俗の仕事は、順調に見えてもそれは一時の姿でしかない。栄枯盛衰、諸行無常。確実な世界は仏道のみにある、というお考えだった

は違ってくるかもしれませんが、私はここで親鸞の「悪人正機」の教え、あの「歎異抄」第三条にある《善人なおもて往生をとぐ、いわんや悪人をや》を思い出すのです。もちろん、この「悪人」は犯罪者とは限りません。広く一切の凡夫、あえて言うならすべての在家者を指すのです。つまり、妻帯し、家庭を持ち、農作業をし、商売をし、肉や魚を食べて生きる私たちのことです。しかし、それが罪であっても必ずや救われる、という意味になります。

職場や学校でさまざまな間違いを犯し、友人や家族に迷惑をかけたきた我が身を思うとき、私はただただ頭を垂れるばかりです。そして思い出すのは、観無量寿經に説かれた王舎城の物語なのです。最後に登場する世尊は、歎き悲しむ在家者たる韋提希夫人に浄土往生を説かれました。その結論を本稿の文脈に沿って再解釈させていただきます。こうなります。

《出家者なおもて往生をとぐ、いわんや在家者をや》

\*

実業家である加藤先生の思いと

この一冊

加藤辨三郎著『実践・歎異抄入門』（ごま書房）

相羽 顕  
（会社役員）

「歎異抄」を読む人は多い。だが、親鸞聖人の深い宗教的境地にふれた「歎異抄」は難解だ。安易な態度で接するのを拒否するかと思える。それがまた人々を引き付けるのだろう。難解なるゆえに多くの訳文や解説書も編まれた。しかし現代生活に即し、平易かつ高度な宗教的立場から「歎異抄」を語った書は少ない。

在家仏教協会 四つの信条

- 一、 釈尊の説法虚言ならずと信じていること。
- 二、 釈尊の説法の内容そのものは永遠の真理であるが、それを大衆に知らせる手段は、時と処と人に応じつねに新鮮でなければならないと信じていること。
- 三、 呪術らしきものは一切排除すること。
- 四、 在家生活のまま仏教に生きようとしていること。

いに答えて著者が語り下ろしたものである。ところが校正刷りのあがった時には、著者は病いの床にあり、原稿も校正刷りも見ることなく、昭和五十八年八月十五日、彼岸に渡られた。

文中、妙好人浅原才市のことを書いてあるが、才市は無学な故に純粋な念仏者であった。工学博士の著者は仏教学者にも劣らぬ仏書の精読をされて、その数多くの著述は驚くほど造詣が深く、才市のように念仏ひとすじに生きられた姿は、きわめて感動的である。

著者の深い宗教心を伝えるのに十分とは言えないかもしれないが、その意図するところは誤りなく伝えたいと思う。説明不足な点があれば、私の力の足りなさによる。皆様の叱生を賜りたい。

更科功著『絶滅の人類史』（NHK出版新書）

匿名希望  
（在家仏教協会会員）

駅前書店の店頭で手にとった八百余円の新書。副題に「なぜ『私たち』が生き延びたのか」とある。先史以前に登場した多くのヒト族の中で、なぜホモ・サピエンスだけが生き残ったかを説いていく。著者は東京大学などで分子古生物学を研究する方のようなだ。

アフリカ中央部で発見された約七百万年前のサヘラントロプス・チャデンシスが現在のところ知られている人類最古の化石とされている。それから長い長い時間のなかで、私たちと似たヒト族があちこちで誕生した。その中でなぜこのホモ・サピエンスの一品種だけが生き残ったか、著者はこう推測する。仮に運動会で先頭を走る競争相手が次々と転んだとしよう。同様に、四万年前に生きたネアンデルタール人などは現存の人類よりも脳が大きかったのに何らかの理由で消えてしまった、と。

私自身、こうした世界は高校の生物の授業で習ったダーウインの

ご支援のお願い

公益社団法人在家仏教協会の活動は会員の皆様からの会費、寄付によって成り立っております。公益法人への寄付は以下のような優遇税制が認められておりますので、是非ご支援をお願い申し上げます。

★所得税  
所得金額から「寄付金(所得金額の40%が限度)12,000円」を控除することができます。

★法人税  
法人税について、法人が支出する寄付金は、その法人の資本金等の額、所得の金額に応じた一定の限度額までが損金に算入されます。このとき、公益法人に対する寄付については、一般寄付金の損金算入限度額とは別に、別枠の損金算入限度額が設けられております。

★相続税  
相続税について、個人が相続財産を公益法人に贈与した場合、非課税となります。  
【租税特別措置法第70条】

ことくらいしか知らない。本書の学術的価値について語る資格などまったくないのだが、それでも一気に読んでしまった。というのもここに描かれる世界が雄大で、我が身がいかに小さく思えたからだ。遠い遠い時間のかなたから生を受け、じきに遠い遠い未来へ消えていくお前よ、という感動だ。

読んでいくと、旧約聖書の創世記、あるいは古事記の「神が人間を作った」とする説話などが小賢しく思えてくる。分かりえないことを分かったごとくに考えた浅知恵よ、という感じだ。しかし、その点で浄土教の「阿弥陀仏」はまだ奥が深い。古代インド語の「ミタ(限り)」に否定辞の「ア」を加えた「無限」の意味であり、ちっぽけな人間が精いっぱい考えた方便法身である。数学的・時間的な永遠ばかりでなく、「いま・ここで」という空間的・実存的な深さも併せ持っている。

本書に戻ると、魅力は文章自体にもある。一文一文が短いのだ。だからだとしないで単刀直入。これも人類発展の証なのだろう。

原稿をお待ちしています

◇随想「仏教と私」「読者からの手紙」(八百字以内)  
人生を振り返って仏教と出逢ったときの感動・講演会の感想などをお書きください。  
◇コラム「この一冊」(八百字以内)

感銘を受けた書籍を紹介してください。新刊だけでなく、思い出しの本も歓迎します。著者名、出版社名、発行年を忘れずに。

\*  
原稿用紙またはメールに添付して、左記宛てにお送りください。住所、氏名、電話番号、よろしければ職業と年齢もお書きください。読みやすくするために、あるいは編集上の都合で、趣旨を変えない範囲で削ったり直したりする場合があります。採用分には薄謝をお送りします。また、不採用の原稿はお返ししませんのでコピーを手元に残してください。

原稿の送り先は、〒101-0006 東京都千代田区神田駿河台3-3-202 在家仏教協会  
「いのち尊し」係。メールはkami.mura@zaikobukkyo.com.jp。

在家仏教通信

月刊誌「在家佛教」の在庫をお譲りいたします

「在家佛教」2012年1月号から2017年5月号までのバックナンバーをご希望の方は事務局までお申し込み下さい。  
年間の講演録を9月号より掲載しておりますのでご確認ください。  
今月は2015年を掲載しました。

2016年以降の講演録についても掲載の予定です。在庫切れの際はご容赦下さい。

年末年始の営業について

事務局業務を十二月二十九日(土)より一月六日(日)までお休みいたします。  
ご不便をおかけいたしますが、何卒ご了承くださいますようお願い申し上げます。

2015年1月号	島 蘭 進	社会に関わっていく仏教
2015年1月号	加藤祐伸	信は願より生ず
2015年2月号	竹村牧男	鈴木大拙を読み直す「新編 東洋的な見方」
2015年2月号	金石昆陽	一心に弥陀をたのむとは
2015年3月号	末木文美士	鈴木大拙を読み直す「日本的靈性」
2015年3月号	池見澄隆	聞く念仏・聞かせる念仏
2015年4月号	西村恵信	鈴木大拙を読み直す「無心ということ」
2015年4月号	菊城淳真	非僧非俗の仏道の選択
2015年5月号	奈倉道隆	いのちの宗教・いのちのケア
2015年5月号	本多弘之	鈴木大拙を読み直す「英訳『教行信証』」
2015年5月号	石上善應	共生の実践
2015年6月号	本多静芳	まことの念仏信心
2015年6月号	重松宗郁	『大拙 禅を語る』
2015年7月号	山折哲雄	親鸞の「一人」、放哉の「一人」
2015年7月号	岩田啓靖	誰が為に鐘は鳴る
2015年8月号	八木誠一	鈴木大拙を読み直す「禅問答と悟り」
2015年8月号	藤谷知道	「悲」の時代－阿弥陀の喪失
2015年9月号	田上太秀	ここに幸あり
2015年9月号	山下秀智	鈴木大拙を読み直す「浄土系思想論」
2015年9月号	市川幸佛	祈りのない宗教－浄土真宗
2015年10月号	長谷正當	仏教における浄土教理の発達
2015年11月号	松平實胤	人生ラスト10年の生き方
2015年11月号	浅見 洋	鈴木大拙を読み直す「禅と日本文化」
2015年12月号	亀井 鑛	人間の根っからな思い違い
2015年12月号	小野寺 功	「日本的靈性」とキリスト教
2015年12月号	ケネス田中	対話と争い